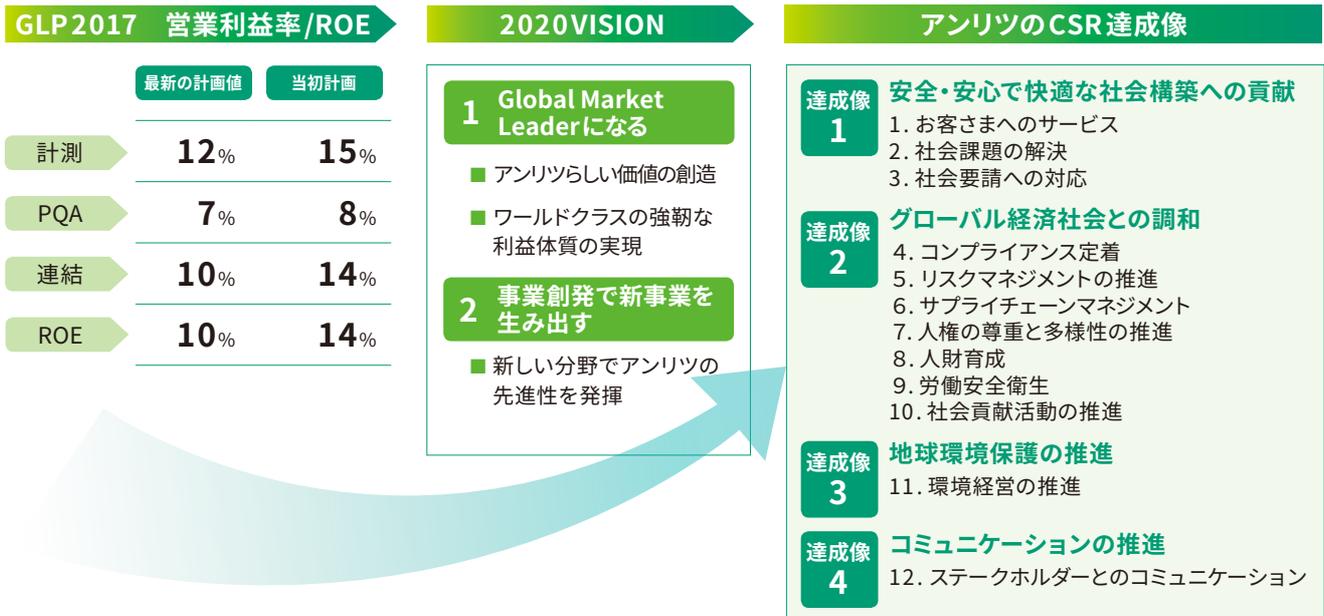


## CSRの基本的な考え方

アンリツグループは、「誠と和と意欲」を掲げた経営理念のもと、法令・倫理・社会規範の遵守をベースに、事業活動によるCSRを通して、経済・社会・環境面の企業責任を果たします。また、コミュニケーションによってステークホルダーの皆さまとのより良い関係を構築し、企業価値の向上をつねに目指しています。



### 4つの達成像の実現に向けて

アンリツでは、私たちの活動の中長期的な達成像を見出すため、2006年に「アンリツCSR活動のあるべき姿」を描きました。ステークホルダーの皆さまとこの4つの達成像を共有し、責任を持って中期経営計画GLP 2017および2020VISIONに取り組むことで、その先にある「あるべき姿」の実現が確実にとなると考えています。

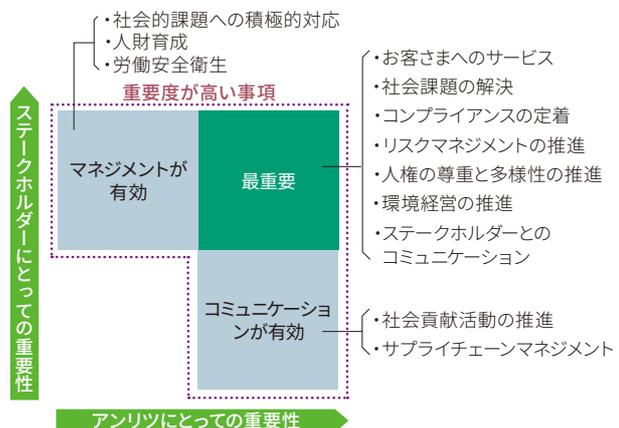
これら達成像の策定以降、変化する事業環境や社会要請を考慮した重要課題や目標の見直し等を随時実施し、社会の皆さまとアンリツグループの利益ある持続的成長に向けた取り組みの充実と進捗状況を含む幅広い情報開示を行っています。

### 重要性測定の手法と結果

アンリツは2008年、客観性と網羅性に配慮し、ステークホルダーごとに分類した社会から要請される142項目について、社内のキーパーソン30人へのヒアリング等を通じて重要性測定を行いました。

この結果、142項目のうち特に重要性が高いと識別された、赤枠部分の領域にプロットされた12項目を、アンリツにとっての重要課題ととらえました。

また、中期経営計画と連動したCSR重点課題を明確にして活動を継続しています。



## 達成像1：安全・安心で快適な社会構築への貢献

	重要課題	2017年への中期目標
中期目標	お客さまへのサービス	グローバルで、お客さまから信頼され、選ばれるブランドになる
	社会課題の解決	グローバル推進体制の確立
	社会要請への対応	事業による社会的課題解決を評価するKPIの策定と目標設定
関連するG4アспект	経済：経済的パフォーマンス、地域での存在感、調達慣行	
	社会（製品責任）：顧客の安全衛生、製品およびサービスのラベリング、コンプライアンス	

### 持続可能な社会の実現に向け、社会とお客さまのネットワーク課題を解決

アンリツは120年にわたり激動するネットワーク社会の進化に対し、先進の計測技術で応えてきました。これからも、「いつでも、どこでも、安全、安心、快適につながる」社会構築に貢献していきます。

#### ■ 皆さまのQoL向上に貢献

アンリツではこれまで培ってきた計測技術を活かし、医療分野での課題解決にも貢献を始めています。Meiji Seika ファルマ(株)が販売する光線力学的療法(PDT)用の医療機器の受託製造を開始しました。PDTは、腫瘍親和性の高い光感受性物質を体内に投与し、レーザー光を照射する局所治療法で正常組織への影響が少なく、身体への負担が軽減された治療法です。

また、電子計測器等の校正事業と医療機器保守事業を行うMテックサポート(株)を新たに設立する等、皆さまのQoL(Quality of Life)の向上にも貢献していきます。



医療機器 PDT 半導体レーザー

#### ■ 食の安全・安心に貢献

食品・薬品業界においてプロダクツ・クオリティ・アシュアランス(PQA)事業を展開しているアンリツ産機システム(株)は、2015年10月にアンリツインフィビス(株)に社名を変更するとともに、社会やお客さまに馳せる想いをブランドメッセージとして発信いたしました。



このメッセージは、アンリツグループ全社で共有するブランド思想“envision : ensure”の精神を基礎に、同事業が追求する品質保証ソリューションの社会的価値や、お客さまとの関係を表現したものであり、最先端の品質保証課題の克服をするソリューションの創造に取り組んでいます。

#### ■ お客さま満足の追求

“envision : ensure”、アンリツは、時代の変化に適応した革新的な商品や信頼されるサポートを継続的に提供することで、世界中のお客さまから不可欠な存在になることを目指して、ブランドステートメントを発表しました。これはお客さまと夢を共有し、具体的なものを創出し、揺るぎないパートナーシップを築いて、イノベーションに挑戦することを表しています。さらに、夢の実現に向けて、その確からしさは、お客さまとの強い信頼関係を生み、ビジョン実現の原動力となります。夢を「確かなものにする」というサイクルが未来に向け常に回っていることを目指します。

##### 品質方針

▶ 顧客と社会に満足される製品を誠と和と意欲をもって造る。

##### 品質方針に関する行動指針

- ▶ 不具合品を出さぬよう、仕事に誠心誠意取り組む。
- ▶ 後工程はお客さま。全体の調和を配慮し行動する。
- ▶ 意欲をもって、改善提案する。

達成像2：グローバル経済社会との調和

中期目標	重要課題	2017年への中期目標
	コンプライアンスの定着	全社員へのコンプライアンス研修の実施・継続
	リスクマネジメントの推進	リスクのグローバル一元管理体制および監査体制の整備
	サプライチェーンマネジメント	CSR調達戦略のPDCA展開、SCM全体でのBCP体制の確立
	人権の尊重と多様性の推進・人財育成	人権デュー・ディリジェンス 採用の多様化と評価・処遇制度の見直し
	労働安全衛生	事故ゼロの実現と継続
	社会貢献活動の推進	4極の主要グローバル拠点における社会貢献活動の推進
関連するG4アспект	社会(労働慣行とディーセント・ワーク)：研修および教育、多様性と機会均等、サプライヤーの労働慣行評価 社会(人権)：非差別、児童労働、強制労働、サプライヤーの人権評価 社会(社会)：腐敗防止、反競争的行為、コンプライアンス	

グローバル・バリューチェーン

事業活動の上流から下流に至るまで、強力なバリューチェーン体制がアンリツの事業活動を支えています。

取引先さまとともに成長して社会課題の解決に取り組む一方、販売フェーズではコンプライアンスを強化して、厳格な手続きを実行しています。これらのバリューチェーンを災害時でも維持できるよう、BCPの取り組みを着実に強化しています。

■ グローバル体制の充実

アンリツグループはグローバルでのCSR活動を推進し、全世界のステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを深めるために各リージョンの体制を定め、年間スケジュールに基づく情報交換を進めています。

下記の10項目について毎年、年度総括が各リージョン担当から本社CSR・CS推進チームに報告されます。

活動項目

- CS activities
- Quality Improvement
- Health and Safety
- Compliance
- Supply Chain
- Information Security
- Protecting Human Rights
- Valuing Employees
- Promotion of environmental management
- Conducting Social Contribution Activities

また、事業のグローバル化に伴い、事業部門や管理部門各部の連携がこれまで以上に求められています。厚木本社、郡山、米州、欧州(イギリス・デンマーク)、アジア(中国)の主要拠点を結んだグローバル会議を、定期・不定期に開催しています。

■ グローバルSCM体制の構築

アンリツは、主に米国、欧州、中国、日本に調達拠点を構えており、部品の採用における評価基準をグローバルで統一化する活動を進めています。

また、グループ企業全体で共通して取引できる取引先さまを、グローバル推奨サプライヤ(Global Preferred Supplier)として相互認定し、取引先さまと開発ロードマップや技術的課題を共有することで、製品開発のTTM(Time To Market)短縮を実現していきます。

2016年3月期は、日米共通の取引先評価基準を取り決め、グローバル推奨サプライヤ(GPS)企業9社を選定、相互利益向上と関係強化を図りました。

また、CSR調達の状況を確認する「CSRアンケート」による調査を主要取引先さま97社に実施し、良好な結果を確認しています。



## ■ 女性活躍推進

アンリツは、生活の充実と自らのキャリア形成を追求することができる、安全・安心で快適な職場環境を築き上げることを重視しています。女性の活躍促進については、出産・育児の前後における休暇・休業・職場復帰制度、時短勤務制度等の諸制度を設ける等、仕事と育児の両立支援に向けた職場環境の整備に積極的に取り組んでいます。

2015年8月に成立した女性活躍推進法に則り、厚生労働省の女性の活躍推進企業のページに、アンリツの女性の活躍状況を公表しています。特に工学系の女性の採用が厳しい状況の中、2020年に新卒採用者に占める女性割合を20%以上とする目標をたて、達成すべく環境整備を推進しています。

### グローバルにみた女性の活躍状況

	日本	米州	EMEA	アジア他	グローバル計
全社員に占める女性社員の比率(%) (女性社員数/全社員数)					
2016/3	14	31	20	26	19
2015/3	13	30	21	26	19
2014/3	13	30	22	26	19
男性の幹部職登用率を100とした女性の幹部職登用率(%) ((女性幹部職数/女性社員数)/(男性幹部職数/男性社員数))					
2016/3	8	64	83	63	44
2015/3	9	56	72	66	44
2014/3	9	59	74	78	47

## ■ バリューチェーンでの人権への配慮

ステークホルダーから信頼され続けるアンリツグループであるために、「人権課題への対応」をCSR戦略課題の一つとして設定し、関連部門が参加する横断的なワーキンググループを立ち上げて、グローバルでの人権デュー・ディリジェンスの実施を計画しています。

2015年10月からの英国現代奴隷法の施行に伴い、アンリツグループとしても強制労働や人身売買等の現代奴隷に対するステートメントを開示し、バリューチェーンにこれらのリスクがないかどうかの調査の実施とその結果を公開する予定です。



## ■ 贈収賄防止に向けた取り組み

ビジネスをグローバルに展開するアンリツグループにとって、贈賄等の腐敗を防止することはコンプライアンス上の重要な課題と認識しており、社会要請に適応した健全で誠実な企業行動を推進するため、腐敗防止に取り組んでいます。

2016年3月期もアンリツグループの関連部署の部門員およびその他の部署の部門長以上の社員約1,450人(国内約750人、海外約700人)を対象にした贈収賄防止WBT(Web based Training)を実施しました。また、これまでの「アンリツグループ贈収賄防止方針」を補足する“Anritsu Group Anti-bribery and Corruption Rules”を新たに策定し、比較的风险が高いと考える「接待・贈答等に関する事前承認」と「代理店等の第三者と新規契約を行う場合のデュー・ディリジェンス」に焦点をあててルール化しました。今後はこの規程を各地域の特性を加味して現地化した上で、それらの防止活動を地域ごとに行っていきます。

### 贈収賄防止に関わるこれまでの取り組み

2012年

▶ 「アンリツグループ贈収賄防止方針」を制定、国内・海外アンリツグループへ贈賄禁止の周知

2013年

▶ 腐敗防止を含んだグローバルな「ケーススタディ」の作成と教育支援

2014年

▶ 贈収賄防止WBT (Web based Training) をグローバルで実施

2015年

▶ 贈収賄防止WBTの継続。Anritsu Group Anti-bribery and Corruption Rulesを策定

達成像3：地球環境保護の推進

重要課題	2017年への中期目標
総エネルギー使用量	2015年3月期比3%以上削減(グローバルアンリツグループ)
水使用量	2015年3月期比3%以上削減(グローバルアンリツグループ)
エクセレントエコ製品の開発	対象製品の全てを省資源10%以上、消費電力改善率30%以上に する

中期目標

関連するG4アспект

環境：エネルギー、水、大気への排出、製品およびサービス、コンプライアンス、サプライヤーの環境評価

環境経営の推進

アンリツは、環境に配慮した製品の開発と生産を追求し、人と自然が共存できる豊かな社会づくりに貢献します。バリューチェーン全体に及ぶ環境経営をグローバルに推進しています。

■ アンリツの環境経営

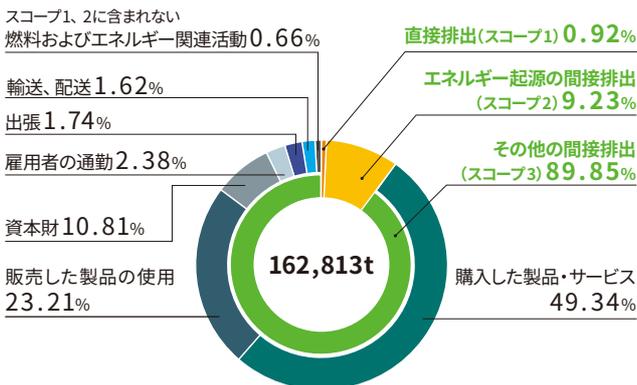
アンリツは、グローバルに環境経営を展開し、「エコマネジメント」と、一人ひとりの「エコマインド」で、「エコオフィス」「エコファクトリー」「エコプロダクツ」の実現に向けた取り組みを、さらに進めています。

■ エコマインド

社員一人ひとりが製品のライフサイクルの一部を担っていることを認識し、業務の中で環境改善を実践し、社会に貢献する良き企業市民になることを目指します。

■ バリューチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出量

アンリツは、バリューチェーン全体で排出した温室効果ガスをGHGプロトコルのスコープ3として算定しています。2016年3月期の排出実績値についても、第三者検証を受けています。



■ エコオフィス・エコファクトリー

オフィスの省エネルギー、省資源、3R\*を実践して環境負荷低減に努めるとともに、工場では法規制順守と環境汚染リスクの低減、省エネルギー、3Rを実践して環境負荷低減に努めています。

\*3R：リデュース、リユース、リサイクル

■ エコプロダクツ

省エネルギー、省資源、有害物質削減を製品のライフサイクル全体で配慮するとともに、お客さまの使用環境においても環境改善に貢献できる製品を開発していきます。



## 達成像4：コミュニケーションの推進

### 中期目標

#### 重要課題

ステークホルダーとのコミュニケーション

#### 2017年への中期目標

統合思考に基づくコミュニケーションの確立  
GRIに準拠したサステナビリティ情報の継続的な開示

### ステークホルダーとのコミュニケーション

アンリツは事業活動全体を通じて、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、良好なパートナーシップを構築します。

#### ■ アジアで最も持続可能な企業100社

チャンネル・ニュース・アジア・サステナビリティ・ランキングの「アジアで最も持続可能な企業100社」で21位を獲得しました。本ランキングは、シンガポールの英文メディア大手の「チャンネルニュースアジア」、ESG評価機関のサステナビリティックス社、CSRアジアが、環境・社会・ガバナンス(ESG)の幅広い観点から「持続可能な企業」をアジア11か国の1,200社以上から上位100社を選出するものです。



#### ■ 機関投資家とのコミュニケーション

アンリツは、一般消費者とは直接の接点が少ない事業をグローバルに展開しているため、事業構造や収益を創出する仕組み、業績に影響を与える要因を株主・投資家の皆さまに正しくご理解いただくことを意識しながら、IR活動を実施しています。

IR活動には、経営層が積極的に参加しております。海外投資家に向けたIR活動として、北米、欧州を中心とした海外カンファレンスやロードショーを4回、また、国内でのカンファレンスを4回実施しました。また、年6回開催した個人投資家向けの説明会には約270名にご参加いただきました。

#### ■ NGO/NPOとの関わり

「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」と協力し、福島・郡山地区の子ども支援に取り組みました。2016年3月期は、障害がある、または支援が行き届きにくい環境にある子ども(フリースクールに通う子ども、母子生活支援施設を利用する子ども)に自然体験や外遊びの場を提供しました。7月から11月までに計8回実施し、社員ボランティアのべ14名が参加しました。福島市近郊の豊かな自然に囲まれた冒険遊び場「茂庭プレーパーク」等で、子どもたちの遊びのお手伝いをしました。

この活動は東日本大震災以来、特に福島県の子どもたちの外遊びが減少している問題に対応すべく、比較的線量が少ない地域で通常幼児期に体験する自然の中での遊びの機会を提供し、のびのびと活動してもらうことを目的としています。



©セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン